環境マネジメント~KKR+Aのテーマのもとに



プは、「K…健康」、「K…環境」、「R…リサイクル」 そして「A…アメニティ:快適さ」を基本理念として、室内環境改善やリサイクル材の活用、 環境負荷の低減など、環境保全への取り組みを続けております。

環境基本理念

近年、地球環境の悪化が急速に進んでいます。その地球 に暮らしている私たち人類が地球環境の維持と改善に努 め、美しい自然を子孫に譲り渡すことは人類共通の使命で あります。住江織物はこのことを認識し、従業員全員が環 境保全に積極的に取り組むことによって、住みよい豊かな 社会をつくります。

住江織物グループ環境対策宣言

1998年発表、2009年に改訂した7つの宣言のもと、環 境対策を推進しております。



室内環境を改善し、 快適な空間を実現します。

タバコ臭やペット臭、生活悪臭に加え、シックハウスの原 因となるホルムアルデヒドなどを吸着・分解して消臭する 「トリプルフレッシュ®加工」のカーペット、カーテン、壁紙、 車両内装品や、アレルゲンの働きを抑制する「アレルブ ロック®加工」、お肌に優しい「スキンケア加工」などにより、 安心・快適な空間を実現します。



循環型社会に対応し、 リサイクル材を積極的に採用します。

ペットボトルから製造されたポリエステル糸の「スミト ロン®」、使用済みタイルカーペットを回収し、リサイクルす る「タイルカーペットリサイクルシステム」、リサイクル性に 優れた鉄道車両用シートクッション材「スミキューブ®」、 ビールケースなどから再生されたPP樹脂の簡易二重床[SE ライト]などリサイクル材を積極的に活用して環境保全と 資源の有効利用に取り組んでいます。



CO2削減と環境負荷を 低減させる製品を提供します。

地球温暖化防止に向けた低炭素社会実現の一端を担う ため、原料、製造、輸送、使用、廃棄といった製品のライフ サイクル全体にわたって、環境負荷を総合的かつ定量的に 評価するライフサイクルアセスメント(LCA)手法に基づく 「ローカーボン製品」を開発・提供します。



安心・安全な素材を使用し、 健康と環境に配慮します。

法的な規制はもちろん、シックハウスの原因となるVOC や廃棄時に問題となる重金属などを含まない安心・安全な 製品提供とともに、ウール・麻・綿などの天然素材も積極 的に活用します。また、火災時に有毒ガスの発生の少ない オレフィン系床材などで、人に優しい製品づくりに努めます。



製造から製品に至るまで、 省資源・省エネルギーに取り組みます。

製造時における材料、副資材、水、エネルギーのロス低 減による資源の有効活用を図るとともに、省エネ設備の更 新推進、品質向上、製品の軽量化、容器・梱包の簡素化、減 量化を図ります。また、輸送効率、使用効率、廃棄効率を追 求し、省資源・省エネルギー化を推進します。



最新情報に基づき、環境負荷物質の 適正管理を推進します。

製品に使用する材料に対して、特定の化学物質の含有に 関する制限が、内外ともに強化されています。この対応と して、対象製品すべてにわたって確認し、サプライチェーン マネジメント(SCM)の考え方に基づいた使用材料の適正 管理を図るとともに、最新の安全性に関する情報入手・把 握に努めます。



エコを意識した製品を 提案・提供します。

製品の見た目や機能面での環境配慮だけでなく、製造の 過程で用いる資源やエネルギーなどを最小化し、易リサイ クル化、製品の長寿命化、廃棄処理の最適化を見据えた「エ コデザイン思想」に基づく、製品およびシステムの提案・提 供に努めます。

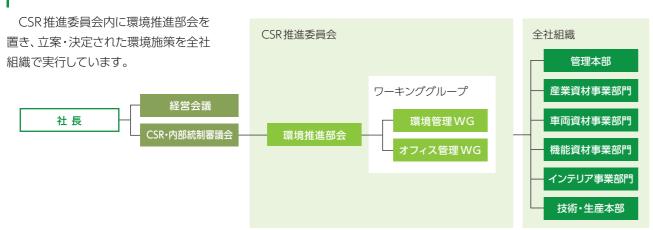
環境マネジメント~KKR+Aのテーマのもとに

行動指針

環境保全を実施するにあたって

- 1 私たちは、企業活動全般にわたって環境を汚染することのないように配慮しつつ、積極的に省エネ・省資源・リサイクルを推進します。
- **2** 私たちは、環境に配慮した技術と商品を開発することにより、生産から販売、 廃棄に至るまで商品ライフサイクルを通して環境保全に努めます。
 - ① 省エネ、省資源技術の開発
 - ② リサイクル技術・リサイクルシステムの開発
 - ③ 環境負荷がより少なく、安全性がより高い原材料への置き換え技術および商品の開発
 - ④ 室内環境を改善し、健康および快適性に貢献する商品の開発
- 3 私たちは、地域社会とのコミュニケーションを通じて社会との共生をはかり、 全従業員が小さなことでもできることから行動を起こします。
- 4 私たちは、環境保全推進のため社内体制の整備と、全従業員の環境意識の高揚に努めます。

環境推進体制



環境マネジメントシステムの導入状況

2000年度に生産事業所である奈良事業所がグループとして初めてISO14001認証を取得。その後順次導入し現在国内の5生産事業所においてISO14001の認証を、1事業所でエコ・アクション21の認証を取得しています。

		エコ・アクション 21:2009		
	奈良事業所•滋賀事業所	帝人テクロス(株)	尾張整染㈱本社·石川工場	丹後テクスタイル(株)
審査登録機関	日本規格協会	日本品質保証機構	日本品質保証機構	持続性推進機構
登録番号	JSAE 235	JQA-EM1519	JQA-EM3114	0009522
登 録	2000年5月	2001年4月	2003年3月	2013年7月
更新	第6回済(2018年5月)	第6回済(2019年4月)	第5回済(2017年7月)	第3回済(2019年7月)

第5次中期行動目標 — エコチャレンジ2020 —

環境との関わり

当社グループの事業と環境とは、製品の開発設計から資材調達・生産・販売・物流、そして使用・廃棄・リサイクルまでのライフサイクル全体を通して、また日頃の事業活動においても深い関わりを持っています。

当社グループでは、製品のライフサイクル、また事業活動全体が環境に与える影響を把握するよう努め、環境負荷低減に取り組んでいます。特に、使用済みタイルカーペットから再生された塩ビパウダーや、ペットボトルから再生された原綿やポリエステルペレットなどの再生材料を積極的に使用するなど、環境にやさしい製品づくりを進めています。CSR活動においても環境配慮に重点を置き、"エコチャレンジ 2020"の目標を掲げ、全グループで取り組んでいます。

エコチャレンジ2020 (第5次中期行動目標)

環境に関する第5次中期行動目標として、エコチャレンジ2020を設定しています。2018~2019年度の2ヵ年を行動期間として取り組みを進めています。



■期間:2018年度~2019年度(2年計画、データ期間2018年6月~2020年5月)

■行動目標と2018年度実績

○:達成 △:一部事業所で未達 ×:未達

	・13動口派と2010年及天順						^ . 不注
		取り組み項目	最終目標値	基準年度	2018年度目標値	2018年度	評価
1	地球温暖化防止	使用エネルギーの削減	2%削減 (原単位)	2017年	-1%	-4.4%	0
		社有車の燃料使用量の削減	2%削減 (原単位)	2017年	-1%	-5.1%	0
2	省資源	再生資源利用率の向上	2%向上	2017年	1%	1%	0
3	廃棄物の3R	産業廃棄物発生量の削減	2%削減 (原単位)	2017年	-1%	2.7%	\triangle
		再資源化率の向上	65%以上	_	65%以上	65.9%	0
		埋立処分率の低減	10%以下	_	10%以下	19.0%	
4	環境汚染防止	大気汚染防止(NOx排出量削減)	2%削減 (原単位)	2017年	-1%	-3.7%	0
		PRTR取り扱い量の削減	2%削減 (原単位)	2017年	-1%	4.4%	\triangle
5	グリーン活動推進	事務用品のグリーン購入率向上	95%以上	_	95%以上	85.2%	\triangle
6	製品のLCA評価促進		LCA評価 12アイテム	_	6アイテム	0 アイテム	×
7	環境に配慮した技術の開発促進		2件	_	1件	1件	0
8	環境に配慮した製品の開発促進		6件	_	3件	3件	0
9	事業活動における生物多様性の保全活動		_	_	_	_	-
10	海外生産事業所における環境負荷の集約と低減		全海外生産事業所のデータ集約	2017年	+1社	0社	×

原 単 位:分母を連結売上高にして計算する。

換算係数:CO2排出量は温対法に基づく排出係数で算出。NOxの換算係数はエコ・アクション21 2002年版で算出。

海外生産事業所の CO_2 排出量は、GHGプロトコルの2007年の各国ごとの排出係数で算出。

37 住江織物グループ CSRレポート 2019

エコチャレンジ2020(2018年度実績)

エコチャレンジ 2020 では、2017 年度のデータを基準としています。 初年度の 2018 年度は、地球温暖化防止や大気汚染防止の取り組みで目標を達成しています。

地球温暖化防止

使用エネルギーの削減

省エネ活動の成果を、使用エネルギーの熱量換算値*で確認しています。海外事業所は基準年の2017年以降、8社を算入しています(2016年以前は5社)。

※ 熱量換算値:単位=GJ[ギガジュール]

■使用エネルギー(熱量換算値)の推移 [海外含む]



[参考データ] CO2排出量の削減

企業活動が地球温暖化に及ぼす影響をCO2排出量で確認 しています。CO2排出量、原単位とも2017年比減少して います(海外:2017年以降=8社、2016年以前=5社)。

■CO2排出量の推移 [海外含む]



社有車の燃料使用量の削減

エコドライブの推進、また、エコカーへの積極的な転換を 進めるなど、社有車の燃料使用量の削減に努めています。 過去5年間順調に推移しています。

■社有車の燃料使用量の推移



省資源



廃棄物の3R

産業廃棄物発生量の削減、再資源化率の向上・埋立処分率の低減

生産に投入される材料のロス削減や不適合品の撲滅、また資源の有効活用など、廃棄物発生の抑制に努めています。今年度、廃棄物処理の状況などに変化があり、産廃発生量と埋立処分率に影響しています。

■産業廃棄物発生量の推移



■再資源化率・埋立処分率の推移



環境汚染防止

大気汚染物質排出量の削減

大気汚染物質には、窒素酸化物(NOx)、硫黄酸化物(SOx)、 粉じんなどがありますが、代表としてNOxを記載しています。 NOxの排出量は、エコアクション21の2002年版の低減対策が 行われていない施設の排出係数で算出しています。

NOx排出量の推移



PRTR取り扱い量の削減

難燃剤のDBDE(デカブロモジフェニルエーテル)やフッ素 系撥水剤のPFOA(ペルフルオロオクタン酸)などが各種 規制により将来的に使用制限されるため、より安全な代替 物質に置き換えつつあります。

■PRTR取り扱い量の推移



グリーン活動推進

事務用品のグリーン購入率向上

資源採取から廃棄に至る、ライフサイクル全体に わたる環境負荷の低減を考慮した物品などの、積極 的な購入に努めています。

■事務用品のグリーン購入率の推移



39 住江織物グループ CSRレポート 2019

エコチャレンジ2020(2018年度実績)

製品の LCA*評価促進

製品のLCA評価促進(目標6アイテム)

製品のLCA評価体制を整え、2015年度より自社 内で評価を行っています。

2018~2019年度の2ヵ年で12アイテムの評価を 目標に掲げていますが、2018年度は新規対象製品が なく、評価0アイテムとなりました。

※ LCA:製品の原材料調達から、生産、流 通、使用、廃棄に至るまでのライフサイ クルにおける投入資源、環境負荷および それらによる地球や生態系への潜在的 な環境影響を定量的に評価する手法、 ライフサイクルアセスメントの略称。



環境に配慮した技術・ 製品の開発促進

環境に配慮した技術の開発促進(目標1件)

PHフィルムの UV インクジェット印刷技術

鉄道車両などに用いられる環境に配 慮した床表示フィルムに、高精細で耐 光性に優れた印刷を可能にしました。



環境に配慮した製品の開発促進(目標3件)

- 鉄道車両用シートクッション材「スミキューブ®」に 新樹脂バネ材「スミキューブエアー」を組み合わせた 「ハイブリッドクッション材」
- 2 軽さとコンパクトさを追求し、家庭洗濯が容易な超 軽量カーペット「Caruru (カルル)」
- 3 リサイクル素材を表面に加工し、 12種類の物質を消臭する「空気を 洗う壁紙®オレフィンプラス」



海外生産事業所における 環境負荷の集約と低減

海外生産事業所のデータ集約

2018年度に新規に環境関連データ 集約を開始した海外事業所は0社とな りました。



事業活動における 牛物名様性の保全活動

2011年度に生物多様性の保全活動について取り組み 方針を策定し、2013年度から事業所ごとに特色のある 活動を実施しています。

取り組み方針

1 事業活動が生物多様性に及ぼす影響の低減

- ・生産事業所内および周辺での生物多様性のモニタ リング調査を行う。
- ・植樹を行う場合は、外来種ではなく、地域に自生し ている在来種を使う。
- ・事業所周辺の清掃を定期的に行い、草刈りなどで 環境を整備する。
- 生物資源を原材料として使用する場合は、その持続 可能性を確認する。
- ・リサイクル原材料を使用した製品開発とリサイクル システムの構築を積極的に行う。
- 環境マネジメントシステムに生物多様性の保全活動を 組み入れる。
- ・事業所ごとに取り組める新たな生物多様性の保全活 動を推進する。

2 サプライチェーン全体での生物多様性への 影響低減に向けたお取引先様への活動

・グリーン調達ガイドラインで、お取引先様への生物 多様性保全活動の協力を依頼する。

3 社会貢献活動

- ・森林保全活動を行う団体を支援する。
- ・みどりの募金活動に協力する。

取り組み実績

〈住江織物(株)奈良事業所〉

事業所の南を流れる岡崎川周辺を桜並木の遊歩道 に整備する「安堵桜友会」に参加し、桜の手入れなどに 協力しています。

〈住江テクノ(株)滋賀工場〉

工場敷地内にて、甲賀市の花であり、人と自然の共生の 象徴といわれる「ささゆり」の増殖に取り組んでいます。

〈尾張整染(株)本社工場〉

木曽川などでホタル飼育に取り組む「一宮平成ホタ ルの会」に賛助会員として参加しています。